令和7年度 第2回 学校評価アンケート結果（保護者による評価）

児童に関する評価（項目1〜14）

1. 気持ちの良いあいさつや返事
50 45 5 <1

2. 時間を守って行動している
37 566 7

3. 決まりやマナーを守っている
51 44 4 <1

4. 自己肯定感が高い
34 47 17 2

5. 相手を思いやる心がある
40 50 10

6. 不安や困りごとを相談できている
41 44 13 2

7. 話をよく聞き、考えを伝えている
28 55 17 <1%

8. 意欲的に学習に取り組んでいる
34 46 18 2

9. 学習したことを身に付けている
38 54 8

10. 宿題や家庭学習の習慣がある
44 33 20 2

11. 選んで運動に取り組んでいる
50 36 14 <1%

12. うがい手洗いの習慣がある
45 36 17 2

13. やるべきことに責任を持つ
31 60 8 <1%

14. あきらめずに最後まで取り組む
30 59 9 2

学校に関する評価（項目15〜25）

15. いじめ・暴力のない学校づくり
51 42 5 2

16. 悩みやトラブルへの誠実な対応
50 44 7

17. 子どもの良さを適切に評価
58 38 5

18. わかりやすい授業・学習意欲向上
53 41 5 <1%

19. 個に応じた学習支援や配慮
53 40 7

20. 校内の環境美化への取り組み
59 37 4

21. 学校の教育活動への満足度
48 49 3

22. 計画的な読書活動の実施
52 41 8

23. 安全管理・安全指導の徹底
58 40 2

24. 情報のわかりやすい提供（メール等）
65 28 6 <1%

25. PTAや地域との連携・協力
60 38 2

NotebookLM

令和7年度 第2回 学校評価アンケート結果（児童対象）

全25項目 (児童170名回答)

本データは、令和7年度の第2回学校評価アンケートの結果です。前半（1〜14）は児童自身の行動や自己肯定感、後半（15〜25）は学校環境や教員への評価をまとめています。全体的に肯定的な意見（そう思う・ややそう思う）が高い傾向にあります。

児童自身の生活と学習 (自己評価)

1. 進んで挨拶・返事

2. 時間を守る

3. きまり・マナーを守る

4. 自分には良いところがある

5. 相手への思いやり・感謝

6. 相談できている

7. 話を聞き、考えを伝える

8. 授業に一生懸命取り組む

9. 学習が身についている

10. 家庭学習に進んで取り組む

11. 進んで運動している

12. うがい・手洗い

13. 係・当番・委員会の責任感

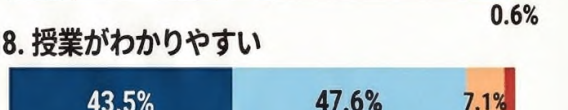
14. 最後まであきらめない

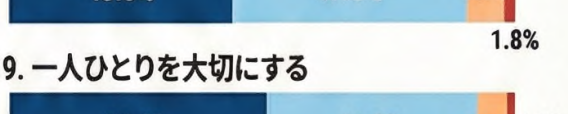
学校環境と教員への評価

15. いじめのない学校づくり

16. 悩みへの丁寧な対応

17. 先生が褒めてくれる

18. 授業がわかりやすい


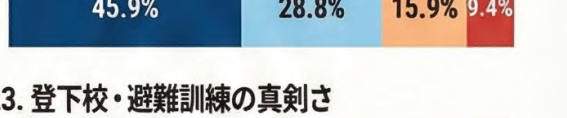
19. 一人ひとりを大切にする


20. 掃除・ゴミ拾いへの取り組み

21. 学校は楽しい

22. 本を読む習慣

23. 登下校・避難訓練の真剣さ

24. 学校のことを家族に話す


25. 家・地域への感謝

そう思う　ややそう思う　あまりそう思わない　そう思わない

※ 各項目の数値は、回答合計数170名を100%として計算。グラフ内の%は各セグメントの割合を表示。

NotebookLM

令和7年度 第2回 学校評価結果報告①
（第2回保護者・児童アンケートの結果とその比較編）

1. 保護者による評価結果の概要

保護者の皆様からは、基本的な規範意識や学校の安全管理体制に対して、非常に高い信頼を寄せていただいております。一方で、児童の外面的な行動だけでなく、内面的な成長や学習への主体性については、より注視が必要であるとの慎重な評価も届いております。

児童の生活・学習習慣（問1～14）

児童の日常的な様子について、保護者の皆様からいただいた評価は以下の通りです。

- ✧ **問3：決まりやマナーの遵守** ｜ 95.5% ｜ 極めて高い評価をいただいております。公の場での態度は良好であると判断されています。
- ✧ **問1：あいさつや返事** ｜ 94.7% ｜ 礼儀の基本が定着しており、学校と家庭の連携が確かな成果を上げていると考えられます。
- ✧ **問2：時間を守る行動** ｜ 93.2% ｜ 生活リズムの確立が概ね肯定的に評価されています。
- ✧ **問4：自己肯定感の高さ** ｜ 81.2% ｜ 生活態度など「外面的な（目で見て判断する）」評価が高い反面、自信などの「内面的な（目に見えない）」評価については課題が残ると分析されます。
- ✧ **問8：意欲的な学習への取り組み** ｜ 79.7% ｜ 学習意欲の維持・向上について、不安や課題を感じていらっしゃる保護者様が一定数存在します。
- ✧ **問10：宿題や家庭学習の習慣** ｜ 77.4% ｜ 全項目中で最も低くなっております。家庭での学習習慣の定着には、さらなる支援が必要です。 ｜

学校運営・安全管理（問15～25）

学校側の組織的な取り組みにつきましては、極めて良好な評価をいただきました。

- ✧ **安全管理と地域連携（問23, 25）：肯定率 97.7%** 児童の安全確保に向けた取り組みや、地域社会との緊密な協力体制に対し、高い満足度と安心感を持っていただいていることが数値に表れております。
- ✧ **情報伝達（問24）：肯定率 93.2%** 学校だよりやメール配信を通じた活動の可視化が、適切に機能していると捉えております。
- ✧ **教育活動の満足度（問21）：肯定率 97.0%** 学校全体の活動に高い評価をいただくとともに、今後の学習内容への期待の大きさも伺えます。

分析結果の総括

今回の分析により、挨拶や規範意識、安全管理といった項目で高い評価を継続していただくことができました。今後は、これらの活動において児童がより主体的に取り組める仕組みを構築し、課題である自己肯定感の向上や家庭学習の習慣化を図ってまいります。学校と家庭がより一層の協働性を高め、両面から協調して取り組むことで、教育活動をより効果的なものにしてまいりたいと考えております。

2. 児童による自己評価および学校評価の概要

児童は、集団生活における自身の役割や学習への主観的な努力に対し、一定の自信を持っています。しかし、内面的な悩みに対する「心理的安全性」や、特定（読書、家庭学習等）の「習慣化」については、見過ごせない課題を抱えている現状が浮かび上がりました。

自らの生活・学習（問1～14）

児童自身による振り返りの結果は以下の通りです。

- ✧ **問3：きまりやマナーの遵守** ｜ 93.5% ｜ 規範を守ろうとする高い自律心が、児童自身の意識の中にも備わっています。
- ✧ **問8：授業への一生懸命な取り組み** ｜ 92.4% ｜ 学習に対する主観的な熱意は極めて高く、前向きな姿勢が見て取れます。
- ✧ **問13：係や当番の責任感** ｜ 92.4% ｜ 社会的貢献意欲が高く、集団の中での自らの役割を強く自覚できています。
- ✧ **問11：進んで運動に取り組む** ｜ 87.1% ｜ 運動に対する積極的な姿勢が良好に維持されています。
- ✧ **問22：読書習慣の定着** ｜ 74.7% ｜ **【課題項目】** 約4分の1の児童が自立的な読書習慣を確立できておらず、本校として大きな伸びしろがある領域と考えております。
- ✧ **問6：不安や困りごとの相談** ｜ 66.5% ｜ **【課題項目】** SOSを出すための心理的ハードルが高い現状にあります。教職員一同、この数値を重く受け止め、保護者の皆様や、専門機関等と協力・連携し、幅広い視野で対策を講じていく必要があると認識しております。 ｜

先生・学校への評価（問15～25）

- ✧ **地域への感謝（問25）：肯定率 93.5%** 地域社会に支えられている実感を多くの児童が持っており、豊かな情操教育が根付いていると言えます。
- ✧ **安全指導・避難訓練（問23）：肯定率 92.4%** 学校側の安全指導が、児童に適切に理解され、浸透しております。
- ✧ **学校の楽しさ（問21）：肯定率 82.4%** 保護者の評価（97.0%）と比較して開きがございます。児童が心から「楽しい」と実感できるよう、心理的安心感の高い学級環境づくりや、学ぶ楽しさを味わえる授業改善に努めてまいります。

3. 保護者と児童の比較分析：意識の相関性

保護者の皆様と児童の認識を対照した結果、教育成果が安定している領域と、支援の視点が異なる領域が明確になりました。

4.1 相関性の高い項目（肯定率の差が5%以内）

以下の項目は、双方の認識が一致しており、学校・家庭での指導基準がうまく揃っている領域です。

- ✧ **あいさつ（問1）：** 保護者 94.7% ／ 児童 90.6%（差 4.1%）
- ✧ **運動への取り組み（問11）：** 保護者 85.7% ／ 児童 87.1%（差 1.4%）
- ✧ **決まりやマナー（問3）：** 保護者 95.5% ／ 児童 93.5%（差 2.0%）

これらはいずれも視覚的に確認できる行動様式です。日々の子どもたちの様子・態度が共通の評価基準となっていることが、認識の一致に繋がっていると考えられます。

4.2 相関性の低い項目（認識の乖離が大きい項目）

認識に大きな乖離が見られる項目については、その背景にある児童の心理に寄り添う必要があります。

- **問6：悩み相談** ｜ ㊐85.7% ｜ ㊑66.5% ｜ **19.2%** ｜ 保護者様は「相談できている」と安心されていますが、児童本人は誰に相談すべきか迷っている、あるいは教育相談の機会に「何を話せばよいか」戸惑っている可能性があります。
- **問22：読書習慣** ｜ ㊐92.5% ｜ ㊑74.7% ｜ **17.8%** ｜ 学校や家庭が提供する読書環境に保護者様が満足されている一方で、児童自身の「主体的・自律的な習慣化」がまだ追いついていない状況です。
- **問8：学習意欲** ｜ ㊐79.7% ｜ ㊑92.4% ｜ **▲12.7%** ｜ 児童は授業内での「主観的な努力」を肯定していますが、大人側はテスト結果や **通知表** 、 **家庭学習への取り組み方** などの「目に見える成果」で判断するため、評価が低くなりがちです。

（※乖離幅の「▲」は、児童の評価が保護者の評価を上回っていることを示しています。）

4. まとめ

共通の強み：規範意識と地域連携の定着

「あいさつ」や「決まりの遵守」における高い水準は、学校と家庭が手を取り合い、一貫した指導を積み重ねてきた賜物であり、深く感謝申し上げます。また、地域への感謝が9割を超える点は、本校が温かな地域社会に包まれた良好な教育環境にあることの証左です。

認識のギャップ：心理的安全性と評価基準のズレ

「悩み相談」における19.2%の認識差は、児童が「誰にも言えない」と孤立を感じているリスクを示唆しており、真摯に受け止めなければなりません。スクールカウンセラーや教育相談員の活用をさらに促進し、教職員・保護者といった身近な大人とのコミュニケーションの質を高めてまいります。また、学習意欲に関する認識のズレについても、学校と家庭での情報共有を強化し、児童の主観的な努力を適切に認め、励ますことで、自己肯定感の向上へと繋げてまいります。

学校運営への期待：自律的な習慣形成への移行

学校運営全体に対しては多大なる信頼をいただいております。今後は、宿題（問10）や読書（問22）といった活動を、「与えられた課題」としてこなす段階から、児童自らが主体的に取り組む「習慣」へと昇華させるための工夫を凝らしてまいります。児童の健やかな成長のためには、家庭と学校が同じ眼差しで寄り添うことが不可欠です。ご家庭におかれましても、児童の小さな変化や努力を温かく見守っていただき、引き続き本校の教育活動を支えていただけますよう、お願い申し上げます。